

*10月、神無月です。神様の留守を見越して台風が襲ってくるのでしょうか、9月末から立て続けの台風襲来です。日本国中にあるもの全てを、箒で吐き出しているのかと思えるほどの雨風でなぎ倒してゆきました。10月には未だ控えている台風が有りです。その昔「時により すぐれば民の嘆きなり 八竜王雨止め給え」と源実朝も神に祈ったと言われていますが、この先10月の台風がどうぞ終わりとなり、子供達の運動会が秋晴れの空の下で出来ますように。

* 10月は運動会以外でも行事が目白押し、1日から始まる「赤い羽根共同募金」は、ちびっこ達も街頭に並び「お願いしま〜す」と言う風景が10月だなど実感するくらいに根付いています。募金は戦後復興の助け合いから始まり、今年は募金期間が翌年3/31までです。町内会、各行政でも取り纏め、年間180億円以上も集まるとか。使途は障害者・高齢者・NPO、また大規模な被災地への義援金と広く「国民助け合い」の趣旨で配賦されています。「絆」として協力しましょう。そして10月の楽しい行事といえばハロウィンです。ハロウィンは、古代ケルト人が行っていた収穫祭や悪魔祓いのこと。何故日本にこんな風に根付いたのか知ませんが、ケルト人の新年は11月1日だったそうで、大晦日となる10月31日には死者の魂に悪霊も付いて来るといわれその悪魔祓いとして行われていたのがハロウィン！ 今年はどうな仮装が街に溢れるのでしょうか。

* 東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を「いつでも」お受け致します。身近なりサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



東港金属株式会社
 東京都大田区京浜島2-20-4
 電話 03-3790-1751
 URL <https://www.tokometal.co.jp/>
 (見学受付)
 電話03-3790-1751 又は 各営業担当



☆ 羅針盤

鉄・非鉄スクラップ・市況からの10月予測

営業部 Y の考察



- 鉄スクラップ** → 考察) 9月は価格の指標となる東京製鉄宇都宮工場特急価格37,500円/トンスタート。輸出価格が低調の中 中盤500円/トン下げましたがすぐに戻し最終的には月初と同じ37,500円/トン。10月は、輸出は低調ですが建設の遅れによる市中発生が少ない為、発生難が予想され、横ばいと思われれます。
- 銅** → 考察) 9月はLME5,800ドル/トン国内銅建値710,000円/トンでスタート。中盤まで横ばい状況が続き、円安、米中貿易摩擦の影響等により、9月25日LME6,300ドル/トン、国内銅建値は750,000円/トンまで上昇。10月に関しては、円安及びLME在庫減少から見て上げると思われれます。
- アルミ** → 考察) 9月はLME2,100ドル/トン台でスタート。月中の変動は殆どなく2,000ドル〜2,100ドル/トン キープ。しかし、新塊の価格が安い為、10月は横ばいでしょう
- プラスチック** → 考察) 廃プラ系の産廃に関しては、相変わらず焼却上の値上げ・受け入れ制限・品質強化が続いています。そのため、都内の中間処理場の在庫が膨れ上がってます。今後は出し先の確保のために、さらなる選別の強化が必要になるでしょう。

9月予測の自己評価

鉄スクラップ ×	アルミ ×
銅 ×	プラスチック -

☆ 羅針盤

ポリ塩化ビフェニル(PCB)使用製品及びPCB廃棄物の処理完了期限が迫っております

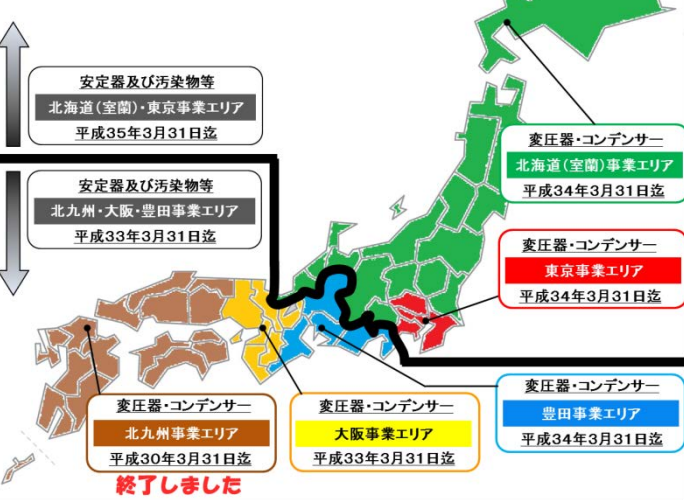
本誌72号(2016年3月)で「PCB特措法改正案」についてご紹介しました。この中では、PCB廃棄物の保管事業者及び使用中の高濃度PCB使用製品の所有事業者に、計画的処理完了期限より前の処分を義務付けております。所有事業者は地域ごとに定められた処分期間内に必ず処分しなければなりません。使用中の変圧器・コンデンサー及び安定器等についても、処分期間内に使用を終え、処分する必要があります。

いよいよ、この処分期限が迫ってきておりJESCO(中間貯蔵・環境安全事業株式会社)北九州事業エリアでは平成30年3月31日に高濃度PCB含有の変圧器・コンデンサーの処分期間の末日を迎えました。他の4事業エリアの処分期間は下図の通りです。

未処分場合は行政処分の対象となる可能性がありますので、対象のPCB廃棄物又は使用製品を発見された場合は、大至急管轄の都道府県又は政令市にお問合せください。

高濃度PCB廃棄物の処分期間

* 環境省「ポリ塩化ビフェニル(PCB)早期処理情報サイト」より編集



因みに、国際条約では「残留性有害汚染物質に関するストックホルム条約(POPs条約)」が2004年(平成16年)5月に発効しており、我が国も条約を締結しております。この条約ではPCBに関し、2025年までの使用の全廃、2028年までの適正な処分を求めています。



東港金属の営業マンとして

営業部 金野 徹

東日本大震災時は、被災地だけでなく全国的にガソリンが手に入らないという現象が起きました。仙台の製油所が被災したことに加え、被災地の多くのタンクローリーが津波で流され、さらにはガソリンの不足を懸念して全国的に買いだめ騒動が起きるといふ悪循環に陥ったためです。私の地元でも、ガソリンを購入するのにガソリンスタンドに並び、整理券を配られる事態になりました。真冬にエンジンもつけておけない状況(ガソリンが減るため)で数十台並んでいる事もザラだったようです。私もよく行っていた地元のガソリンスタンドでは、その状況に足元をみて、横柄な商売を行っていたようです。今では、以前からの常連客が離れてしまったようで、我が家も一顧客でしたが、震災以来一度も給油には行っておりません。震災という不慮の状況だからこそ、助け合いが必要になりますし、その時の行いも広く印象に残るものです。

東港金属からは採用の連絡を頂いていたのですが、震災の影響もあり 4月1日からの入社が出来ず、4月18日より千葉工場にて勤務がスタートしました。入社当時は伝票起票や台貫作業がメインのデスクワークでした。右も左もわからなかったため、現場の方の無線の専門用語を聞き取れず、よく叱られていました。台貫のアラームが鳴る度に恐怖を感じて、挫折しそうな日が続いていました。

入社して3ヶ月ほど経ち、やっと業務にも慣れてきた頃に、震災スクラップの入札を落札したので宮城県名取市に行ってほしいと指示がありました。新ヤードを作り、入出荷の管理業務でおよそ1ヶ月出張して欲しいとの依頼でした。何をやるのかも分からないまま、営業車にて宮城県の名取市へ向かいました。着任先は、震災から3ヶ月経過していたため、がれき類はあらかた片付いており、何も無い更地になっておりました。もともと田畑だった場所のようで、敷地を簡易的なロープで囲い、一部通路に鉄板を敷いて簡易ヤードを作りました。電気も水道も無い場所で、発電機と簡易トイレが必要なところでした。

準備が出来たところで、震災スクラップの集積地からヤードまで大型のダンプを往復させてスクラップを運びました。1ヶ月の予定が延び、3ヶ月ほど経ったところで、重機に乗れる従業員とバトンタッチし、千葉工場に戻ることが出来ました。ほっとして戻った一人暮らしのアパートは、夏の間も締め切っていた状態だったので、家中カビだらけになっていましたが、今思うと貴重な体験をさせてもらったと思います。

千葉工場に戻ってからは、またしばらく事務を担当していたのですが、千葉工場の仕入れ担当の営業マンが退職する事になったため、後任で仕入れ営業になりました。そして入社7年。今では千葉工場の出荷担当として千葉工場に常駐しております。色々な職務を担当させていただきマネージャーという立場も頂きました。これからも、会社の経営理念を意識し、お客様の役に立てるよう、日々精進していきたいと思ひます。

(了)